

Ⅲ. 各種機関との交流

1. 2. 2 平成 20 年度 霞ヶ浦・八代視察

霞ヶ浦アサザプロジェクトの視察

アサザプロジェクトは霞ヶ浦の自然再生に取り組むNPO法人であり、改善例は多岐に渡っている。中でも霞ヶ浦の水源地を再生させようという取り組みは、水や木の循環を謳う、我々の取り組みにとっても非常に参考になる事例である。

霞ヶ浦の水源地になっている谷津田とは、谷にある湿地の田を意味し、多くの生物を育んでいる土地である。米余りの昨今の事情から耕作放棄地が多く、良質な水を涵養する水田が荒れてしまい、土壌流出という形で霞ヶ浦の水質にも悪影響を与えている。この荒廃した土地を元の水田に戻すための取り組みが見事であった。

- ・ 企業の共同参画で人手を確保している。
- ・ 米余りの実状を踏まえ、酒米を栽培することした。
- ・ 収穫した酒米を地元の酒造会社に卸す。

正に我々が目指す、物質と人との循環が織りなす、環境改善であった。特に大手企業であれば多くの人手や関係者が集い、宣伝効果も高い。企業としても環境貢献の名目が立ち、社員教育や社員とその家族のリフレッシュにも一役買っている。更には、ボランティアの労働力に支えられたことで、安価な酒米が地場の酒造会社に供給でき、産業の育成に貢献できる。



写真 谷津田にてアサザプロジェクトのスタッフから話しを聞く様子

熊本県八代市日奈久温泉再生の視察

八代高専が同様に現代GPに採択された、日奈久温泉再生プロジェクトは学生のアイデアで日奈久を紹介するものである。日奈久温泉は開湯600年の歴史を誇り、数寄屋を始め数多の歴史的建造物を有する地区である。八代の工業地帯から多くの客が通ったのは昭和の時代のことであり、今ではしっとりとした雰囲気を嗜む客が訪れる静かな町である。現状では来客が少ないために、廃業を余儀なくされた旅館が歴史的建造物を手放し、朽ちていく姿が随所に見られた。この対策に乗り出したのが八代高専であり、学校ができる地域貢献を参考にさせて頂いた。

- ・ 学生が調査した歴史的建造物の紹介
- ・ 学生お手製の通りの装飾
- ・ 土壁の修復
- ・ 散歩道など町作りの提案
- ・ 空き店舗を利用した情報発信所

学生にとっては、現場を知り、直接産業に貢献できる機会でもあり、仕事への責任を感じられる良い機会であると思われる。旅館を始めとする町の人達も好意を持って接しており、学校と町の一体感があつた。学生と地域の人が直接一緒になって活動できる場を設けるのが、我々教員の努めであると考えさせられた。



写真 日奈久温泉街の空き家にて学生展示物を見る